

# 国際山岳年記念 ユー・スエベレスト 環境視察実施報告

2003年11月



日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト

## 趣旨と目的

日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト（HAT-J）では、国連が定めた国際山岳年（2002年）に際し、HAT-Jがこれまで10年間にわたり、国内外取り組んできた国際交流青少年環境体験登山の経験と実績を踏まえ、アジア地域全体を視野に入れて、環境教育、山岳環境保護、環境体験登山などの取組を、として、ユースエベレスト環境視察を実施致しました。

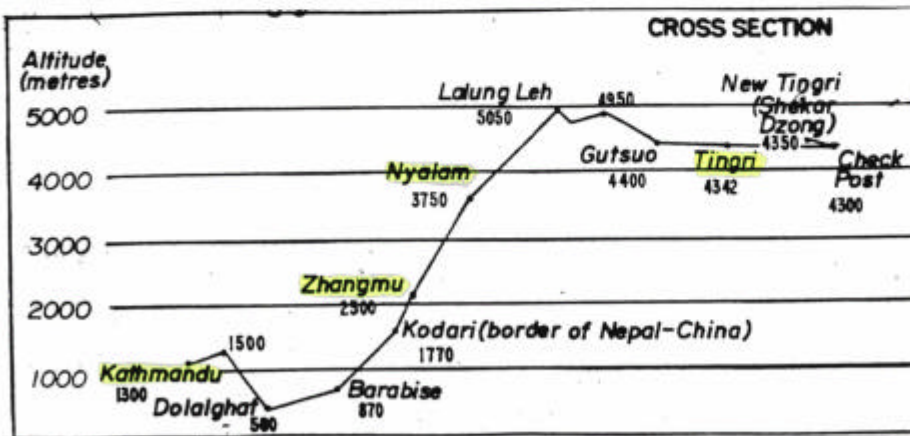
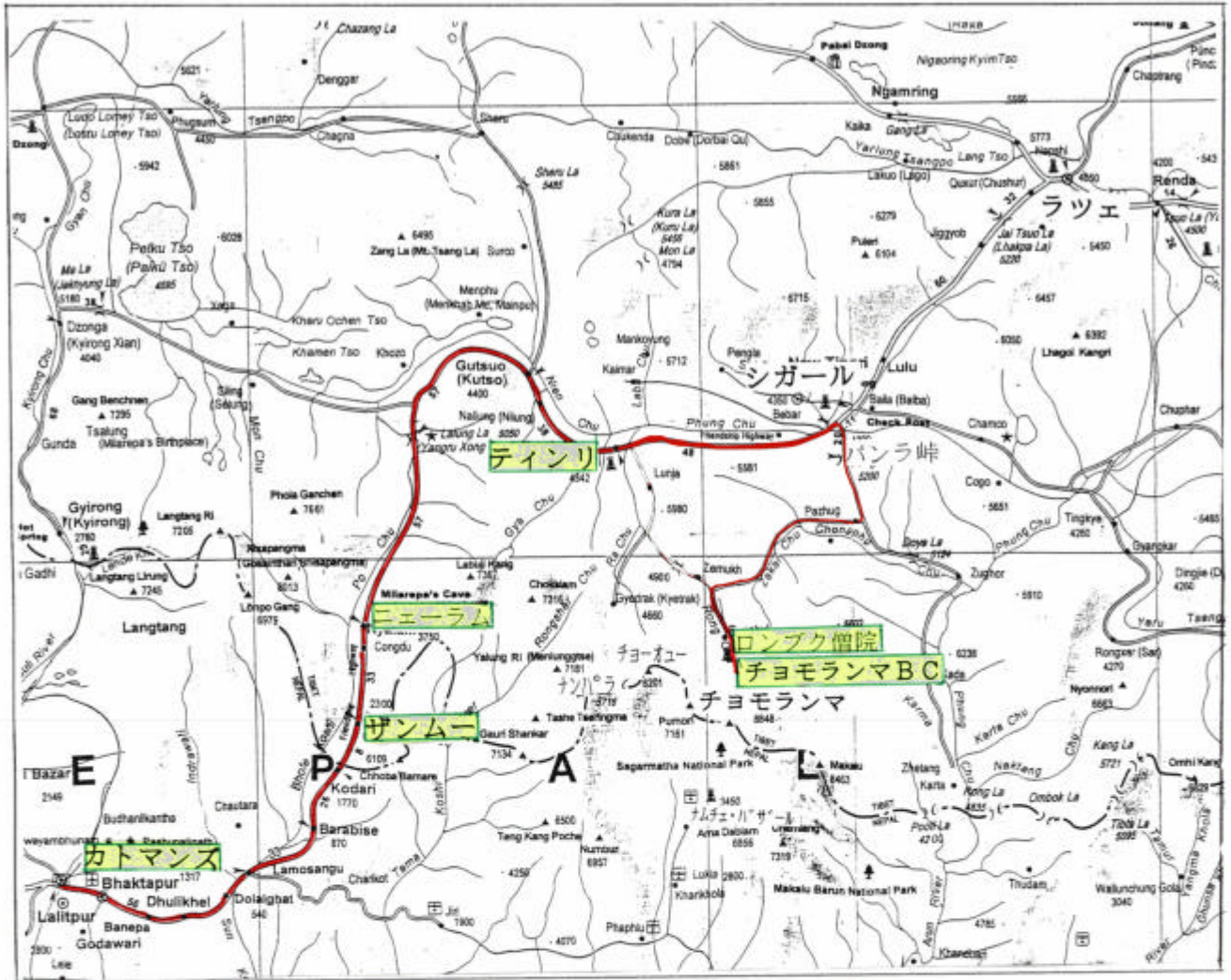
同時に、ユースエベレスト環境視察は、国際山岳連盟が、2002年9月15日に世界規模で清掃登山を提唱していることに呼応し、チョモランマのベースキャンプ訪問と視察により、山岳環境保護について理解を深めてもらい、山岳環境保護のための行動に参加してもらうことを目的致しました。

## 実施概要

| 月/日      | 行 動 予 定                                     | 宿 泊  |
|----------|---|------|
| 9/8 san  | 羽田 関西空港 カトマンズ                               | ホテル泊 |
| 9/9 mon  | カトマンズ ザンムー(2350m) (専用車)                     | ホテル泊 |
| 9/10 tue | ザンムー ニェラム(3750m) (専用車)                      | ロッジ泊 |
| 9/11 wed | ニェラム滞在 (高度順応のため周辺ハイキング)                     | ロッジ泊 |
| 9/12 thu | ニェラム ティンリ(4300m) (専用車)                      | ロッジ泊 |
| 9/13 fri | ティンリ チョモランマBC(5200m)<br>ロンブク僧院(5000m) (専用車) | ロッジ泊 |
| 9/14 sat | ロンブク僧院 ザンムー (専用車)                           | ホテル泊 |
| 9/15 san | ザンムーカトマンズ (専用車)                             | ホテル泊 |
| 9/16 mon | カトマンズ滞在                                     | ホテル泊 |
| 9/17 tue | カトマンズ(交流会) カトマンズ                            | 機中泊  |
| 9/18 wed | 関西空港 羽田                                     |      |

参加者：日本の学生 12名  
スタッフ 4名  
HAT-J会員 6名  
ネパールの青少年および山岳連盟関係者 10名  
その他、ガイド、ドライバーほか

主催：日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト  
協力：株式会社リコー  
ボーイスカウト日本連盟



== 区間距離 ==

|               |       |
|---------------|-------|
| カトマンズ→ザンムー    | 122km |
| ザンムー→ティンリ     | 185km |
| ティンリ→ロンブク僧院   | 75km  |
| ロンブク僧院↔BC(往復) | 30km  |

## 実施報告

### 参加者（青少年）

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| (1) 岡村 恒紀 法政大学  | (2) 鈴木 友浩 コンサルタント |
| (3) 梅木 誠子 東京農工大 | (4) 三木 香恵 慶応義塾大   |
| (5) 伊賀 洋一 慶応義塾大 | (6) 太田黒紀人 学習院大    |
| (7) 榊原 隆陽 日本福祉大 | (8) 小川 由樹 常磐大     |
| (9) 田部井進也 駿河台大  | (10) 平野 祐規 奥羽大    |
| (11) 吉田 祥恵 信州大  |                   |

### 参加者（一般）

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| (12) 平松 和世 HAT-J 会員 | (13) 下條 雅晴 HAT-J 会員 |
|---------------------|---------------------|

### スタッフ

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| (14) 田部井淳子 HAT-J 代表   | (15) 神崎 忠男 HAT-J 理事長 |
| (16) 田上 和儀 HAT-J 専務理事 | (17) 廣田 博 HAT-J 理事   |

### ネパール（青少年）

Ms Kelsang YangjomSherpa

Mr Phuba ChetenSherpa

Ms Astha Lama

以上のほか、ネパール山岳協会役員らが出席

## 実施日程（詳細）

9月8日（日） 日本 ネパール（カトマンズ）

午前6時40分 羽田 ANA カウンター前集合  
午前7時35分 羽田発 RA 141便 午前8時50分 関西国際空港着  
午前10時 関西空港からの参加者と合流  
午後12時30分 関西空港発 RA 412便 午後6時14分 カトマンズ空港着  
午後7時10分 ホテルヒマラヤ着 先発者合流

参加者のうち、独自活動のために8月末に先行してネパール入りしたボーイスカウト関係の青少年をのぞく、本隊の参加者とスタッフは、8日朝、羽田に集合、関西空港に移動して、関西からの参加者と合流してロイヤルネパール航空のカトマンズ便で出発。この便は上海経由のため虹港空港で約1時間の休憩を経て、カトマンズへ。空港から、マイクロバスでパタンにあるホテルヒマラヤに移動。ホテルで、参加者全員がそろい、翌日からのうちあわせをすませる。

9月9日（月） カトマンズ 1,400m ザンムー 2,340m

午前6時15分 コダリに向けバスで出発  
午前8時55分 Kadichaur にて休憩  
午前11時20分 Kodari 着 通関、昼食  
午後1時03分 ネパール、中国国境の友誼橋を徒歩にて通過  
午後1時25分 中国側のランクル5台に分乗し Zhangmu へ向かう  
午後2時00分 中国側通関を終え Zhangmu 2,340m に入る  
午後2時15分 樟木賓館 ZhangmuHotel へチェックイン  
午後6時 夕食。パルスオキシメータによる酸素飽和度測定の開始  
午後7時30分 ガモウバックの体験講習会



第2日目は、カトマンズから陸路で、国境を越えて、中国側国境の街ザンムーまで約120キロの道のり。カトマンズと国境を結ぶ道路は、道路事情が不安定なため、早朝に朝食をすませ、バス1台でネパール側のガイドらとともにホテルを出発。ネパール側の道路は崖崩れなどが多く、途中で歩くことも多いがこの日は、道路は特に支障はなく、途中休憩を経て、昼前にネパール側国境の街 コダリに到着（写真左はコダリの町並み。後ろの山の中腹の町はザンムー）。昼食をすませて、出国カードを記入、一括して手続きをすませて、徒歩で国境の友誼橋へ、橋の真ん中あたりの赤い色のラインが国境とのこと。橋を渡ったところで、中国側の国境係官のパスポートチェック、中国側ガイドの出迎えを受け、国境の商店街のよ

うなところを抜けて、駐車場へ。ここからはトヨタのランドクルーザー 5 台に分乗して、中国側国境の街ザンムーへ急坂の悪路を約 600メートル登る。街の入り口に、中国側の国境係官や税関の事務所があり、ここで、入国の手続きを終了すると、すぐ隣が、この日の宿舎、星の数をいうなら二つ星の樟木賓館に入る。

明日の宿泊予定地ニエラムは富士山頂近い高度にあり、以後、5200メートルのエベレストベースキャンプまで、高地滞在となることから、これからさきの高度障害への対応についての説明と、高度障害に陥った場合の緊急対処のためのガモウバック（写真右の赤い袋状のもの）の使用方法についての講習会を実施するとともに、酸素飽和濃度を測定するパルスオキシメータによるチェック開始した。



### 9月10日(火) ザンムー ニエラム 3,750m

午前 10 時 55 分 ニエラムへ向けて出発  
午後 12 時 26 分 ニエラム 3,750m 着 SnowLand [ 雪域旅館 ] にチェックイン  
午後 2 時 00 分 高度順化のため近くの丘をトレッキング  
午後 3 時 50 分 4,000m 地点に達す  
午後 4 時 50 分 [ 雪域旅館 ] に帰着  
午後 6 時 00 分 夕食(高度障害の症状がでた参加者あり)

この日は、ニエラムまでの比較的短い行程なので、ゆっくりと出発。ザンムーの街をはずれると道路の舗装はおわるが、ごく一部をのぞいて、道路状態も良く、1時間半でニエラムに到着。ここに2泊して、高地に身体をならすための高度順化を行う。

昼食をすませて、街の裏側にある丘まで出かける。丘といってもすぐに4000メートルの高度で、もう、日本国内では体験できない高さである。ゆっくりと丘を下り、街にもどる。

この日、夕方の時点で、参加者2名に高度障害の症状がたものの、今後の行動には支障がない程度であった。

ニエラムの街は、このあたりといったの高所登山の際の、高度順化の場所として、シーズンには海外からの登山者の多い街で、チベット自治区ニエラム県の県都である。宿泊した雪域旅館（写真右）は、この街では外国人の宿泊が多い旅館と



### 9月11日(水) ニエラム滞在(高度順化のため)

午前 10 時 00 分 高度順化の為 近くの丘をトレッキングに出発  
午前 11 時 00 分 3,793m 地点で休憩  
午後 12 時 37 分 4,250m 地点で到着

午後 1 時 03 分 4,250m 地点を出発  
午後 2 時 30 分 Snow Land [ 雪域旅館 ]

高度順化のため、一日、ニエラムに滞在する。街から川をはさんで対岸の山の中腹までトレッキングをする。ニエラムの街のはずれの橋のたもとにチェックポイントがあるので、パスポート持参の行動となる。街から橋をわたり、ティンリーへむかう国道を少しあるいて、崖を下って橋をわたり、再び登り返すと放牧地に至る。ここから登り始める、街を出てから 2 時間半で 4 2 5 0 メートルの地点に達する。昨日のトレッキングより、2 5 0 メートル高い地点に達したことになる。帰りは 1 時間半で宿舎までもどる。



### 9月12日(木) ニエラム ・ティンリー 4,300m

午前 9 時 35 分 ティンリーに向け出発。  
午前 11 時 00 分 ヤルレ・シュンラ峠 5,080m ( 休息 )  
午前 11 時 25 分 ヤルレ・シュンラ峠出発。  
午後 1 時 53 分 ティンリー 4,300m 着 珠峰賓館に入る  
午後 3 時 00 分 周辺の丘をトレッキング、珠峰賓館に戻る

この日は、標高 4 3 0 0 メートル、エベレスト B C への入り口に街でもある標高 4 3 0 0 メートルのティンリーに向かう。ニエラムとティンリーの高度差は 5 5 0 メートルだが、途中に 5 0 0 0 メートルの峠が 2 つもある。( 写真は、シュンラ峠での記念撮影 ) ニエラムを出ると、まもなく木は見えなくなり、チベットの荒涼とした大地が続く ( 写真下は、川を渡るランクル )。ちいさな集落を経て、峠で小休止して、ティンリーに向け、坂を下る。舗装道路に入るとまもなくティンリーの街、街を通り過ぎて、はずれにある珠峰賓館にはいる。塀にかこまれた敷地に、真ん中の広場をかこむように平屋の宿泊室や食堂、最近出来たというシャワールームまでがな



らぶ。

足慣らしを兼ねて、街の後ろの丘を歩いて、宿舎に戻る。高度障害の表れた参加者が増えており、薬の服用者が出ている。

当初予定したティンリーからランマ・ラ峠を経てベースキャンプに至る道路は通行不能とのことで、経路を変更することになる。

9月13日(金) テインリー エベレストBC 5,200m ロンブク僧院 5,000m

午前7時45分 エベレストBCにむけ出発  
午前9時50分 チェックポイント4,400m 通過  
午前10時32分 パンラ峠5,120m 着(休憩・昼食)  
午前11時45分 バスン4,277m 着(休憩)  
午後1時05分 バスン出発。  
午後1時50分 ロンブク・ゴンバ(僧院)5,000m 着。ロンブク招待所に入る  
午後2時15分 チョモランマBCに向けて出発。  
午後2時30分 チョモランマBC5,200m 着。  
午後4時10分 BC内の[珠峰大本营](管理事務所)訪問  
午後4時50分 ロンブク招待所に帰着。



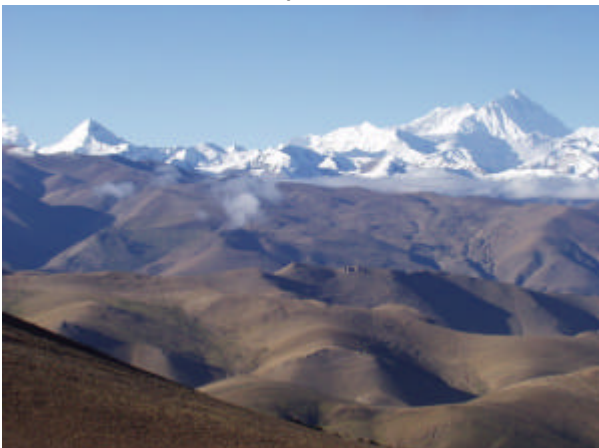
経路変更にともない、シーカルへ向かう国道を約2時間西に進み、シーカルの街の手前から、パンラ峠を経てベースキャンプに至る道に入り、チェックポイントでのチェックを経て、急坂を登り、40分ほどで5120メートルのパンラ峠(写真左下、峠からみたチョモランマ)に達する。ここは、エベレスト、チョーユー、ローツェなどの山々が見渡せる、絶好の場所。

バスンという集落の[野人旅館]で昼食。一人、高度障害のひどい参加者がありここにとどまることになる。残りは、依然として悪路をロンブク僧院を目指す。

午後1時50分にロンブク僧院の招待所に入り、(写真右はロンブク招待所から見たチョモランマ)荷物を置いて、すぐエベレストBCに向けて出発。約15分で、今回の企画の最高地点、5200メートルのエベレストBCに到着。石がごろごろしたなかを氷河の突端近くの丘まで歩く(写真上、BCを歩く参加者)。目の前にエベレストが見える。帰りに、チベット



登山協会の担当者が常駐する珠峰大本营を表敬訪問して、ロンブク招待所に戻る。高度障害のでている参加者も多く必要に応じて薬を服用。





## 9月14日(土) ロンブク ザンムー

午前3時30分 ロンブク・ゴンバを出発。  
午前4時10分 バスン着。  
午前4時40分 バスン発。  
午前6時00分 パンラ峠通過。  
午前8時07分 テインリー着(休憩・朝食)  
午前8時46分 テインリー発。  
午前10時30分 ヤルレ・シュンラ峠(休憩)  
午前11時23分 ニエラム(休憩)  
午後12時43分 ザンムー 樟木賓館に入る

ネパールで16日に計画されているバンダ(ゼネスト)と高度障害による体調不良者を考慮して、ロンブク招待所の出発を早めて、早朝、3時半に出発、野人旅館で休憩、前夜宿泊者と合流してティンリーへ、朝食をすませて、ザンムーまで一気に下ることにする。高度障害を治す一番の策は、低地におりることである。ニエラムまで下ると、高度障害はほとんどなくなる。

一番早いグループは、12時43分にザンムーに戻る。以後、車の調子や現地の残務処理などもあり、三々五々戻ってきた。(写真はヤルレ・シュンラ峠からの展望)



## 9月15日(日) ザンムー カトマンズ

午前9時30分 出発、通関手続き。  
午前10時00分 出国手続き終了 友誼橋へ向かう。  
午前10時55分 友誼橋を徒歩で通過  
(以後 ネパール時間で記載)  
午前9時24分 ネパール側コダリで入国手続き  
午前10時30分 コダリ発  
午後4時27分 ホテルヒマラヤ着(自由行動)

往路と逆に、ホテルを出て、国境事務所で出国の手続きをして、友誼橋(写真右)を経て、コダリへ、ネパールの入国手続きをすませ、カトマンズをめざす。カトマンズに近づくと軍や武装警察が銃器を肩にものものしい警戒やチェックポイントでのチェックが続く。途中、ドリケルマウンテンリゾートで昼食。夕食は、カトマンズ市内のタメルでとり、ホテルに戻る。



## 9月16日(月) カトマンズ(バンダ(ゼネスト)の為 終日ホテル滞在)

午後1時00分 フォーラム開始  
午後5時00分 フォーラム終了

この日は、バンダということで、通りを走る車は、軍や警察の車をのぞいて殆どいない。市民は徒歩や自転車で移動しており、ホテル近くの商店もシャッターを下ろしている。

午後から、フォーラムを実施、田部井淳子代表のなどの話につづいて、グループに分かれて分科会(写真右)に入り、全体会で集約を行い、フォーラムを終了した。



## 9月17日(火) カトマンズ (関西空港)

午前・午後 自由行動  
午後4時30分 ホテルヒマラヤをチェックアウト  
午後5時30分 ネパールの青少年およびネパール山岳協会関係者との交流会  
午後8時20分 交流会終了・空港に向けて出発  
午後8時40分 カトマンズ空港着・搭乗手続き  
午後11時50分 カトマンズ空港発 RA411便 <<機中泊>>

夕方まで自由行動となった。それぞれに買い物や用務をすませて、夕方までにホテルに戻り、チェックアウトをすませ、ネパールの青少年、ネパール山岳協会の役員との交流会に向かう。(写真右、交流会で、ネパール側参加者)

交流会には、昨年、日本で行った国際交流青少年環境体験登山に参加した青少年などが参加、3時間近くの交流を行い、バスでカトマンズ空港へ移動。深夜、11時50分発のRA411便で、上海経由で関西空港に向かう。



## 9月18日(水) カトマンズ 関西空港 羽田空港

午後12時15分 関西空港着  
午後1時40分 関西空港発 NH144便 午後2時55分 羽田着

朝、上海の虹橋空港で、機外に出て約1時間の待ち時間を利用して買い物をする参加者も。上海を出発するとまもなく、日本の領空へ入る。ほぼ、定刻に関西空港に到着。ここで関西からの参加者とわかれ、全日空機で羽田に移動し、解散。中国では高度障害になやんだ参加者も元気に自宅へ。

## まとめ

今回のユースエベレスト環境視察は、環境教育の取組の一環として、企画したもので、チョモランマのベースキャンプ訪問と視察により、山岳環境保護について理解を深めてもらうこと等を目的致しました。

ベースキャンプは、いわゆる登山の最盛期とはちがひ、滞在者はベースキャンプの管理にあたる方々を中心であるため、基本的にはゴミもない状態であった。中国側のベースキャンプは車に入れることもあり、ネパール側と比べてゴミの処理は行いやすいが、ゴミの集積場所が指定されているなど一定の取組がおこなわれていることを認識することができた。

同時に、ベースキャンプの立地から考えて、また、最盛期には、ベースキャンプに、相当数の滞in者があり、ゴミの量も相当量におよぶことから、ベースキャンプより上に持ち込む荷物量はもちろんのこと、ベースキャンプまでの荷物についても、テイクアウトやベースキャンプの撤去時における対応などの重要性を再認識した。

ベースキャンプまでの道中では、道路に捨てられたごみや、人目につかない斜面に大量に投げ捨てられているゴミなど、この地域全体として、環境保護についての意識の向上やゴミの分別処理を含めて、今後の課題であることがよくわかった。

同時に、5000メートルという高度は、参加した学生にとっては初めての、高さであり、今回も、参加者の何人かが程度の差こそあれ、高山病の症状が出、また、相当重い症状になった参加者もあり、高地で行動することの大変さを感じた様子である。

参加者とネパールの青少年の交流は、ネパール側参加者が昨年、日本で開かれた国際交流青少年環境体験登山に参加した青少年が中心であったことから、昨年参加して以来の環境保護に関する認識などについて意見交換をおこない、また、ネパールの青少年が歓迎の太鼓と歌を披露してくれた。

発行 日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト  
東京都文京区本駒込1-1-17  
本駒込SOビル903号室  
TEL 03-3828-6872  
FAX 03-3829-6873